

大相撲に沸いた夏

市長 米本弥一郎



今年の夏を象徴するような暑さの中、大相撲旭場所が開催されました。昭和36年以来、実に64年ぶりの巡業であり、旭市20周年記念にふさわしい催しとなりました。開催に当たり、ご尽力をいただいた多くの皆さまに心より感謝申し上げます。

旭市と大相撲の縁は深く、東日本大震災の際には、当時の横綱・白鵬関ら9人の力士が駆け付け、市民を勇気づけてくれました。また、市内の高齢者施設には追手風部屋の力士が何度も慰問に訪れてくれています。これらの縁もあって、今回の開催につながったと思っています。

5月に市役所で行われたチケットの先行販売では、徹夜組が出るほどで、その後の一般販売も数日で完売となりました。8月上旬には、大きなのぼり旗が立ち並び、市内のムードも急激に高まってきました。

当日は豊昇龍関、大の里関をはじめ、豪華な顔ぶれがそろい、巡業関係者から「開催が決まってから新横綱が誕生し、東西横綱を迎えられる旭市の皆さんは、持って「ますね」との言葉をいただきました。

公開稽古が始まると、力士たちの体と体がおつかる音に圧倒され、すもうじんくや初切、おおいちきり大銀杏の髪結実演など、巡業ならではの演目も楽しませていただきました。横綱の土俵入りや取組は本場所さながらで、取組が進むにつれ、ひいきの力士への大きな声援や拍手で会場の熱気も高まり、最後の横綱対決では最高潮を迎え、大盛況のうちに幕を閉じました。

力士が四股を踏むことには、元々は土地の邪気を祓い、五穀豊穡や無病息災を願う意味があるそうです。大相撲との縁が、豊かな旭を次世代へつなぐ力になればと思います。